

全数・定点報告疾患集計表（管内で届出のあった疾患のみ抜粋）

【全数報告疾患】

	疾患名	26週 ～27週	累計 (年)
2類	結核	0	2
4類	レジオネラ症	1	2
	E型肝炎	0	2
5類	百日咳	0	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	2
	梅毒	0	3
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	2
	アメルパ赤痢	0	1
	急性脳炎	0	1
	水痘(入院例)	0	1
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1
	多剤耐性緑膿菌感染症	0	1

【定点報告疾患】 ※県より上回っているものは赤字にしています。

疾患名	山武保健所		千葉県	
	26週	27週	26週	27週
インフルエンザ	0	0.17	0.2	0.09
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.17	0.83	0.69	1.08
咽頭結膜熱	0.33	0	0.41	0.22
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.67	0	2.74	2.1
感染性胃腸炎	1.67	0.67	3.75	3.82
水痘	0	0.33	0.41	0.22
手足口病	0.67	2.0	6.26	11.59
急性呼吸器感染症(ARI)	41.67	31	55.13	57.34

※定点報告疾患については、該当週に報告数0の疾患は掲載していません。また、第23～27週のグラフを別添しております。

感染症トピックス

TOPICS 1

夏休みの海外渡航前に感染症対策を確認しましょう。

海外には、日本にはない病気がたくさんあります。

海外で感染症にかからないようにするために、感染症に関する正しい知識と予防方法を身に付けましょう。

✏ 海外での感染症予防のポイント

- 渡航地や渡航先での行動によって異なりますが、最も感染の可能性が高いのは食べ物や水を介した消化器系の感染症です。
- 日本で発生していない、動物や蚊・マダニなどが媒介する病気が海外では流行していることがあり、注意が必要です。
- 人から人に広がる感染力の強い麻疹(はしか)、風しん及びポリオ(※)が流行・発生している地域があることにも注意してください。
※麻疹(はしか)や風しん及びポリオは世界保健機関(WHO)が排除又は根絶を目指している病気に含まれています。

🔍 渡航前に確認すること

- これまでに自分が受けた予防接種について、母子手帳などで確認しましょう。
- 海外渡航に際し推奨されている予防接種で、まだ受けていないものがあれば、時間的な余裕をもって医師に予防接種の相談をするなど、適切な感染予防を心がけましょう。
- 渡航先で流行している感染症を確認しましょう。

⚠ 旅行中に注意すべきこと

- 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使うなどしましょう。
- 動物は狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。また、ヒトコブラクダはMERSウイルスを持っていることがあります。むやみに近寄ったり、触らないようにしましょう。
- 薬物やゆきずりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとしましょう。
- 咳や発熱、発疹など、なんらかの症状がある方との濃厚な接触は避けるようにしましょう。

✈ 帰国・帰宅後

- 空港や港に設置されている検疫所では、渡航者の方を対象に健康相談を行っています。帰国時に発熱、咳、発疹、下痢などの症状があったり、具合が悪かったり、体調に不安がある場合や動物に咬まれた、蚊に刺されたなど渡航先での出来事で健康上心配なことがあれば、検疫官に相談しましょう。
- 感染症には、潜伏期間(感染してから発症するまでの期間)が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中あるいは帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関を受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴などについて必ず伝えてください。

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことです。人が野外作業や農作業、レジャー等で、これらのダニの生息場所に立ち入ると、ダニに刺されることがあります。ダニに刺されないよう以下の予防対策を行いましょう。

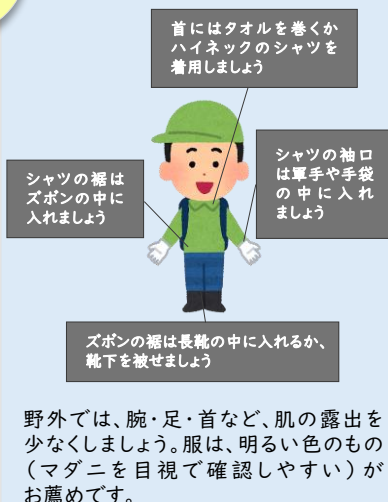
主なダニ媒介感染症の種類(日本での報告あり)



感染症名	潜伏期間	主な症状	備考
回帰熱	12～16日	発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、全身の倦怠感	・アメリカ大陸、アフリカ、中東、欧州の一部で患者の発生が報告されています。 ・シラミに咬まれることでも感染します。
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	6日～2週間	発熱、消化器症状	・日本、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ及びミャンマーで患者発生が確認されています。 ・ヒト-ヒト感染の事例も報告されています。
ダニ媒介脳炎	2～28日	発熱、頭痛、髄膜炎	・日本では北海道において流行が認められています。
つつが虫病	5～14日	発熱、特徴的な刺し口、発疹	・千葉県では南部での発生が多いですが、他地域での発生もみられるため、全域で注意が必要です。
日本紅斑熱	2～8日	頭痛、発熱、倦怠感	・我が国特有の疾患ですが、同様の紅斑熱群リケッチア症は広く世界に分布しています。
ライム病	3～30日	皮疹、筋肉痛、関節痛、発熱	・世界では欧米で増加傾向にあり、日本では北海道や本州中部以北での報告が多くなっています。

予防対策 Point解説

肌の露出を少なくする



虫除け剤を使用する



帰宅後の行動



マダニに刺された場合

- ダニ類の多くは、長時間(10日間以上のこともある)吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるため、皮膚科等の医療機関で、適切な処置(マダニの除去や消毒など)を受けましょう。
- マダニに刺されたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けましょう。

医療機関の皆さまへ

ダニ媒介感染症(クリミア・コンゴ出血熱を除く)は感染症法において四類感染症に位置付けられています。患者(確定例)もしくは無症状病原体保有者を診断した場合、感染死亡者及び感染死亡疑い者の死体を検案した場合には、ただちに保健所まで届出をお願いいたします。また、感染が疑われる場合についても、保健所に御連絡をお願いいたします。

【引用文献】

(厚生労働省 ダニ媒介感染症)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>
 (JHS クリミア・コンゴ出血熱)
<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/crimea-congo-hemorrhagic-fever/index.html>
 (厚生労働省 マダニ媒介性の回帰熱に関するQ&A)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kokkaku-kansenshou/kaikinsu_qa.html
 (JHS ダニ媒介脳炎)
<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-encephalitis/index.html>
 (JHS つつが虫病(詳細版))
<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/tsutsugamushi-disease/detail/index.html>

〈千葉県HP つつが虫病に注意!〉

<https://www.pref.chiba.lg.jp/siken/seisakennyuu/virus/documents/tsutsugamushi.pdf>
 (JHS マダニ対策、今できること)
<https://id-info.jhs.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>
 (千葉県HP ダニ媒介感染症について)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shinpei/kansenshou/tick.html>
 (リケッチア感染症診断マニュアル 令和元年6月版)
<https://id-info.jhs.go.jp/surveillance/issr/pathogens/vol45/530/Rickettsia20190628.pdf>

山武保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

● 管内 ▲ 県全体 — 警報基準値 - - - 解除基準値

マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は基幹定点のみCOVID-19、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は警報基準値等の設定なし。

